

# 松溪憲雄先生・伏見恵文先生の退職記念号によせて

龍谷大学社会学部学会会長 津 島 昌 弘

2017年度末をもって、社会学部地域福祉学科の松溪憲雄先生と伏見恵文先生のお二人が定年退職されます。

お二人を本学への着任順にご紹介します。

松溪憲雄先生は、1980年3月に早稲田大学大学院商学研究科博士課程を単位取得退学されました(1997年2月に早稲田大学から博士号〔商学〕を取得)。同年4月に東北福祉大学社会福祉学部専任講師として着任され、1984年4月に助教授に昇任されました。1990年4月に龍谷大学社会学部助教授として着任され、1994年4月に教授に昇任されました。

先生は、本学赴任後、地域福祉学科主任、大学院社会学研究科科长、大学評議員、法人評議員などの役職を歴任されました。学外の活動では、大学基準協会相互評価委員会委員、雇用・能力開発機構介護労働環境改善事業助成審査委員会委員、日本社会福祉教育学校連盟大学院委員会委員などを務められました。

先生の専門は社会保障論で、イギリスの医療保障を中心に研究を行ってこられました。龍谷大学社会学部紀要には、「イギリスにおける老人問題：ケアを中心として」(16号)、「イギリス NHS 下の Private Finance Initiative について」(42号)をはじめ、計8本の論文を寄稿されています。

松溪先生が社会学研究科科长をされていたとき(2005年度)に、私は社会学専攻教務委員として、研究科運営を一緒にさせてもらいました。「若い津島さんは研究もしなくてはいけないのに、教務委員にさせてしまって申し訳ない。」いま振り返ると、先生には、要所要所でいろいろと心配りをしていただいた記憶があります。また、先生のユーモラスで「歯に衣着せぬ」発言は、単調になりがちな学部教授会に絶妙なアクセントをつけていただきました。

伏見恵文先生は、1975年3月に東京大学理学系研究科を修了されました(2000年7月に東京大学から博士号〔保健学〕を取得)。同年4月に厚生省に入省され、その後、世界保健機構(WHO)統計部統計官、社会保障研究所研究部長などを務められました。龍谷大学社会学部には、1999年に教授として着任されました。

先生は、学外の活動として、人口問題審議会専門委員、滋賀県地域年金事業運営会議委員長、社会福祉士試験委員・精神保健福祉士試験委員などを務められました。

先生の専門は社会保障論と保健統計学で、とくに医療、年金を中心に研究を行ってこられました。「厚生指針」や「季刊社会保障研究」など厚生労働省関連の機関誌に継続して寄稿され、常に第一線に立って、当該分野についての諸課題を明らかにするとともに、政策提言を行ってこられました。龍谷大学社会学部紀要には、「老人医療の受診パターンと医療誘発需要」(21号)を寄稿されています。

個人的には、統計を用いた私の論文に対して辛辣なコメントをいただきました。先生の高度でかつ実証的なご研究は社会学部の授業に十分反映されなかったのではないのでしょうか。残念に思います(私の思い過ごしでしたら、申し訳ありません)。

松溪先生と伏見先生のご紹介は以上の通りです。

残された我々は、お二人が在職中に果たされた役割ならびに教育・研究に対するお二人の精神をきっちり受け継いでいくよう努力いたします。最後に、松溪先生と伏見先生の本学の教育・研究への貢献に対してお礼を述べるとともに、お二人の今後のご多幸とご健勝をお祈りいたします。